

平成 28 年度 第 2 回香川県立図書館協議会 議事録

日 時 平成 29 年 3 月 22 日 10 : 00 ~ 11 : 30

場 所 香川県立図書館 研修室

出席者 清國委員、大西委員、荒谷委員、伊賀委員、岡委員、小川委員
久保田委員、本多委員、渡邊委員

欠 席 山本委員

(1) 開会

(2) 館長挨拶

(3) 議題

(1) 平成 29 年度予算・事業計画 (案) について

- ・事務局より平成 29 年度予算・事業計画 (案) について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記の通り

委 員 : 利用者アンケートの中にも図書の実を求める声が高い。平成 29 年度は、サービス向上事業が終了となる。平成 30 年度は是非復活してほしい。(資料費予算の) 基準が人口 1 人当たりの図書費ではなくもっと他に基準があるのではないか。

事 務 局 : 予算については、図書館サービス向上事業で蔵書の充実費が特別についた時から予算当局と話をしている。できるだけ経費をつけてほしいということと急に打ち切ることがないようにということをこれまで伝えてきたが、平成 29 年度は人口一人当たりという考え方で予算が措置された。

この予算は平成 26 年度からついたところであるが、平成 25 年度の予算は、資料費が 28,332,000 円と図書館運営にも支障が出るような額であった。3 年間続けて一定の充実は図れたが、雑誌・新聞・郷土資料など

固定費が約 1,000 万円程度かかっており、必要な資料を購入する予算の確保が非常に厳しい状況である。今後は、寄贈資料の呼びかけなども検討していこうと思っている。委員の方々のお立場からは難しいかもわからないが、資料費が重要であるということをいろいろなところでお声掛けしていただければ、私どももありがたい。

委員：都道府県の平均値で予算を確保するということがあったが、人口 1 人当たり直すとどれぐらいの差があるのか。かなり額が落ちるのか。

事務局：昨年度の予算は 55,873,000 円で、全国の図書館の資料費の平均額だ。人口 1 人当たりでは、28 年度が 32.9 円。その平均に人口を掛けるが、人口も減っており、また、全国的にも資料費は減少傾向にある。全国の数字が 1 年遅れて出てくるので比較が難しいが、今がおそらく全国で 11、12 位程度のところ、29 年度は 35 位程度になると見込まれる。

委員：なかなか厳しい。

事務局：施設の規模や現在の蔵書数を勘案してほしいと言っているが、私どもの努力不足なのかもしれないが、なかなか受け入れられなかった。

委員：予算減額の厳しい状況の中で、今後いかに流用していくのが大切だと思う。すでに県立図書館でも実施されているかもしれないが、日本絵本賞・読書賞というのを昨年知り、本校で今年初めて実施した。各出版社のお勧めの 1 冊がノミネートされていて、その 24 冊を 1 セットとして複数セット購入し全校生徒で読み投票することにした。投票は別として、職員や子どもの感想を聞いていると、絵が綺麗であった、内容も良かったという意見を聞いた。今後購入するに当たり、良い本を選別して予算を有効に使っていただけたらと思う。

委員：12 月 1 日から人権週間が始まるにあたり、人権に関連する展示を行っていただきたい。今問題になっているいじめ、虐待、犯罪被害者、性同一性障害などを展示して皆さんに理解を求めたい。

事務局：私どももイベント関連展示等で取り組んでみたいと思う。その上で、各課とも連携して何かできることがあれば検討したい。

委員：平成 29 年度の予算（案）についてだが、図書館サービスに要する経費が、69,000 円と少ない。この予算で平成 29 年度事業計画（案）の行事が進められるのか。

事務局：この予算のみで事業計画を実施しているわけではない。

委員：平成 29 年度事業計画（案）の中に、図書館コンサートは予定人員が 180 人とある。平成 28 年度は 7 月 2 日に同じ図書館コンサートがある。こちらは参加人数が、167 人とある。これは学校などに呼び掛け等行ったのか。

事務局：普通に広報しただけである。

委員：県立図書館はエントランスも非常に広いし設備も整っている。本とは直接関係はないが、4月に行われるこども読書まつりと連携してコンサートを行えば、より子どもたちにも図書館を印象付けることができる。音楽を図書館運営に生かしていけば、来館者数にも結び付くのではないかと聞くとところによると演奏者の方は、会場を探すのに非常に苦労をしているようだ。そういった意味でも図書館の設備を生かすことができるのではないかと。新年度でご検討いただければと思う。

事務局：図書館コンサートについては、こども読書まつりの中でも計画している。さぬきこどもの国のスタッフに、“Fun! Fun! ミュージック♪”という子供たち向けに楽しい音楽をしていただく内容である。また、金管アンサンブルの“ゆかいな仲間たち”という有志の団体があり、28年度は7月2日に子供向けのものを、2月26日に大人向けのものを開催した。これはボランティアで行っていただいているので、こちらの方で先の予定を計画することが難しい。開催したいと思う時期が近付いて、集まれる方に行っていただいているのが実情だ。できるだけこういった行事を多く実施したい。人との繋がり新しい方が図書館の施設を利用しているいろんなことを行っていただければと思っている。

委員：コンサートのクオリティを保つために、申し出があれば、随時、開催の可否を図書館が行っているのか。

事務局：実際に試聴してというのは難しいので、実績で判断させていただいている。

委員：大学であれば、学生のサークルがある。

事務局：そういった方でも大丈夫です。

委員：図書館でもコンサートを開催できることを県民の皆様に周知できれば、おのずと人が集まるのではないかと。

事務局：私どももお声掛けしていければと思っている。

(2) 平成28年度運営状況について

- ・事務局より平成28年度運営状況について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記の通り

- 委員：子どもの本と読書の講座の「おはなし会に生かすパネルシアター」に参加させていただいた。先生は大変有名な方なので、友人を誘って参加しようとしたが、定員がいっぱいで友人は参加できなかった。また、同じような講座を行っていただきたい。参加しているメンバーを拝見すると、みなさんボランティアの方がほとんどだった。司書や図書館員は、少なかったと思う。司書や図書館員も参加できればと思った。
- パネルシアター自体は作ったことがある。楽しいが、時間と手間暇がかかる。なかなか事業に生かすことは、難しいのではないか。ボランティアの方は数名でまた作ったらいよいよというように盛り上がっていた。
- 委員：参加者の属性は把握しているのか。
- 事務局：把握している。図書館関係者の方、ボランティアの方、それから一般の方も若干おられる。50人で募集したが、すぐに定員になりキャンセル待ちとなった。講師の先生と相談し、最終的に54名を受け入れることになった。お断りした方もおそらくいると思う。
- 委員：他機関との連携による行事ということで、県の水産課、環境政策課との事業を行われている。どなたの企画で、窓口を設けているのか。どういう発案で行われるのか参考のためにお聞かせ願いたい。
- 事務局：結果的には人との繋がりになると思う。例えば環境政策課であれば、学校支援文庫のPRの為に12月に行われた“香川の教育づくり”という先生方が集まる場に参加した際、同じくPRに来ていた環境政策課の隣のブースが県立図書館のブースだった。時間が空いている間に話が盛り上がり、図書館で何かやってみようということになった。こちらから計画をして進めるという方法もあるが、今回のように人とのかかわり合いの中でこうしたものにつながることもある。
- 委員：行政というのは縦割りなので、なかなか他の機関と連携をとるのは難しい。いい企画であった。
- 委員：身内の話になるのだが、図書館に慣れていないので本を探そうにもどこに何があるのかわからず、検索機を使用することも人に聞くこともできなかった。そういった時は、どうすればいいのか。と質問された。そういった方でもわかりやすい方法は何かないのか。それと本屋大賞か直木賞を受賞したような本の予約の電話をしたら、2か月待ちと言われ諦めたそうだ。その後、割と新しく小さな図書館に行くと予約数が少なかったが、市外に在住の方は予約できないと言われたそうだ。
- 事務局：1つ目の図書館の利用についてだが、パンフレット等用意はしているが、実際来館されて使い方がわからないと思われる方はいると思う。もう少し気軽に聞いていただける雰囲気作りが必要なかもしれない。他県で

行われている、図書館利用講座なども含めてカウンター職員とも話をしてみようと思う。

予約については、ベストセラー・人気本に予約が集中する。図書館としては、基本は1冊。予約が多くなれば、2冊、3冊までは購入することがある。従来から、複本問題というのがあり、出版者側から言えば、図書館が10冊、20冊と購入すると本が売れなくなるという意見がある。本は、借りていただくことでしか読めないということではないが、人気の本であれば、70～80件と予約がある。貸出期間が15日間なので、最長期間貸出すとなるとなかなか回ってこないということになる。

委員：私達が所属している同人誌がどこに配架されているのかわからず、本の整理を行っている職員に尋ねてみた。その方は配架されている棚まで連れて行ってくれ、大変丁寧に対応していただいた。パソコンで検索しようとしても何から調べたらいいのかわからないので、職員の方に尋ねるのが1番だと思う。

(3) 図書館評価について

- ・事務局より図書館評価について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記の通り

委員：利用者アンケートの質問で③当館のサービスの満足度についての2項目目に新刊書が少ないとあるが、どのような基準で新刊書を購入しているのか。

事務局：現在、新刊書の購入率は約3割である。資料の購入方法は、毎週1回館内で選定委員会を開いているが、どういった資料を選定にかけるかというと、①業者に依頼して図書館に備えるべき本を持って来ていただく②新刊図書案内という情報を見る③利用者からの購入希望の3つがあり、選定後、発注、装備、開架を行っている。

委員：出版社から本が寄贈されることはないのか。

事務局：一般の方が自費出版されたものや団体から寄贈されるものはある。

委員：古い同人誌はあるのか。

事務局：郷土資料は新刊のみ開架し、バックナンバーは書庫に保存している。

委員：今年度開館時間の延長を試行されている間、遅くまで勤務されている方にとってはありがたかったと思う。アンケート結果には、県立図書館の利用頻度がほとんど毎日、週に1～2回、月に1～2回を合わせると440

人いる。それにもかかわらず、開館時間延長の試行を知らなかったという人が 329 人もいる。図書館へよく足を運んでおられる方達にだけでも知っていただけるお知らせ方法を工夫する余地があるのではないかと思う。平成 29 年度も延長を実施されるようなので、周知の仕方を工夫していただけたらと思う。

事務局：掲示板やホームページにも掲載しているが、なかなか見ていただけない。もっといろいろな所に掲示したり、マスコミにもお願いしなければいけないと思う。

委員：掲示も大事だと思うが、いつも同じ場所に掲示しているといつもと同じ掲示だと思われてしまうので、カウンターなどで声掛けをすると利用者の心に留まるのではないかと思う。

委員：本当に延長を継続的に行うことがサービス向上に繋がるのか、難しいところではある。

委員：私は、図書館を本当に利用するようになったのが、仕事を辞めてからである。県立と市立を使い分けしているわけではないが、新刊や雑誌など気楽に読めるものは、市の図書館の方が雰囲気も明るく利用しやすい。それに対して県は暗い、良く言えば重厚。そういうイメージがある。利用していて感じるのは、閲覧用の机が学生の勉強用になっており奥にある一般用の書棚へ向かう際、非常に通りにくい。本来は閲覧用の机であろうかと思うが、学生の勉強する環境がないということなのだろうと思うが、少し配置を工夫したらと思う。文書館の稼働率が低いようである。管理が別なので仕方ないとは思いますが、文書館との横のつながりがあればよいのではないか。

事務局：この建物は複合施設であるが、取り扱う資料が違うこともあり、今言われたような利用はできていない。利用者の方が使いやすい施設となるような努力が必要である。学生の自習は認めていない図書館が多いと思うが、当館の場合は席が空いていれば利用して良いということになっている。土・日は社会人席以外を学生も利用でき、試験シーズンになると開館時間が 9:00 だが、8:00 過ぎから並んでいる。多い時には 100 名以上並んでいることもある。閲覧室が通りにくいということについては、配置の工夫ができるかどうか話し合いたいと思う。

委員：図書館評価指標の入館者数の評価指数を平成 28 年度の B から A にするためにはどういったことをお考えかお聞かせ願いたい。

事務局：500,000 人という数字は、これまで 1 番多い時の入館者数に人口減少を加味した上で出した数字である。図書館離れは全国的にみられるが、県立図書館の周辺は住宅も多く建ち、駐車場も広いので車でも比較的来館

しやすい環境にある。まず図書館を知っていただくことが、大切だと思う。新規登録者が増加すれば、必然的に入館者数の増加に繋がるのではないかと思う。図書館に関連するイベントなどを行い、図書館を知っていただくことも大事なのだと思う。どういったことを行えば来館者数増加につながるのか、皆様からご意見を頂きたい。

委員：HPのアクセス数が増加傾向にはあるが、もう少しHPの改善も必要な部分があるのではないかと思う。ご検討いただければありがたい。

事務局：当館のHPは、他県の図書館と比較すると少し見劣りする。H29年の12月にシステム更新が予定されているので、利用しやすくわかりやすいHPにできるよう努力していきたい。

委員：入館者数の多い図書館に視察へ行くことはあるのか。

事務局：近隣であれば岡山県立図書館は来館者数が多いが、視察というよりも気軽に休日に行ってみるといふところである。

委員：スターバックスが入っている図書館をテレビで見たことがある。

事務局：それは県立ではなく岡山県の高梁市図書館だと思う。そこは図書館というより、交流施設・観光施設として自治体が位置づけているのだと思う。運営は全てTSUTAYAの運営会社をお願いしているようだ。香川県としては、今のところそういったことは考えていない。中核図書館として、市・町にも支援をしていかなければならないと思っている。

(4) その他

1) 平成28年度 平日の開館時間延長の試行結果について

- ・事務局より説明
- ・承認